

## 大淀町立学校のめざすべき望ましい教育環境に関するアンケート（結果）

1. 期 間 令和5年5月8日から令和5年5月31日
2. 目 的 本町において、将来を担う子どもたちに、望ましい教育環境を整え、充実した学校生活を実現するために、大淀町立学校の適正な規模や配置について検討を進めていくうえで、保護者や住民等の広くの方々から意見を聴き、方針の参考とするために実施する。
3. 方 法 Googleフォームを利用したWeb方式とペーパー方式による任意回答
4. 案 内 町広報、あらかしテレビ、町ホームページ、町のLINE、保護者への依頼 ほか
5. 対 象 者 学校等の保護者、一般住民、教職員（就学前施設を含む）

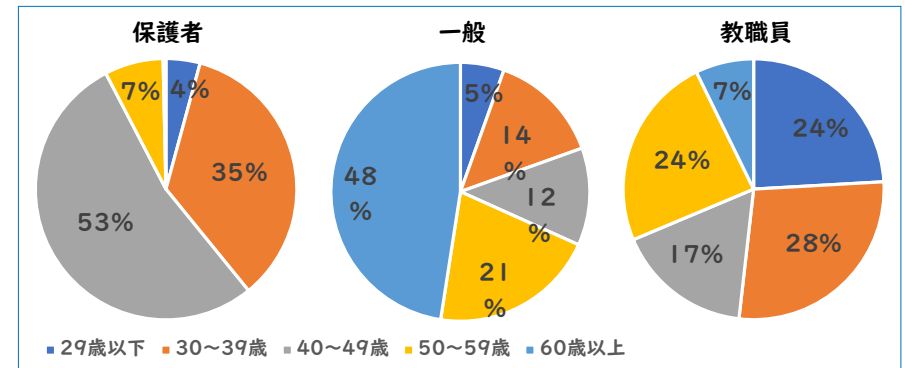
### 6. 回答状況

回 答（人）	
大淀町内就学前施設および大淀町立小中学校の保護者	524
一般住民	164
教職員（就学前施設を含む）	83
合 計	771

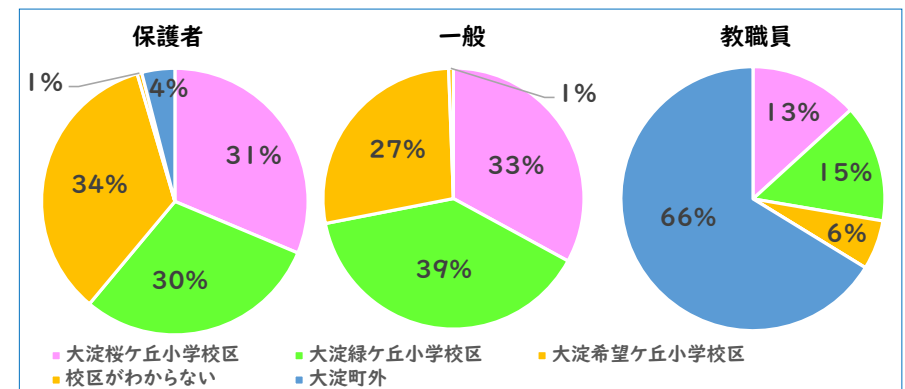
## 【大淀町立学校の目指すべき望ましい教育環境に関するアンケート資料】

### ○あなたについて(ご回答者)

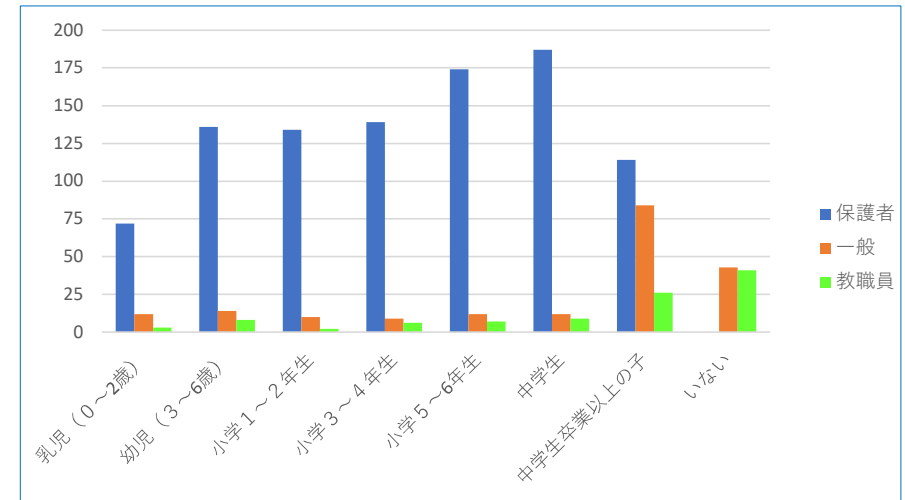
①年齢	保護者	一般	教職員
29歳以下	22	9	20
30～39歳	183	23	23
40～49歳	279	20	14
50～59歳	38	34	20
60歳以上	2	78	6



②お住まいの場所	保護者	一般	教職員
大淀桜ヶ丘小学校区	164	54	11
大淀緑ヶ丘小学校区	156	64	12
大淀希望ヶ丘小学校区	180	45	5
校区がわからない	3	1	0
大淀町外	21	0	55



③お子さん ※複数回答	保護者	一般	教職員
乳児(0～2歳)	72	12	3
幼児(3～6歳)	136	14	8
小学1～2年生	134	10	2
小学3～4年生	139	9	6
小学5～6年生	174	12	7
中学生	187	12	9
中学生卒業以上の子	114	84	26
いない	0	43	41



【大淀町立学校の目指すべき望ましい教育環境に関するアンケート資料】

○望ましい教育環境について

①望ましい教育環境 ※最大3つまで選択	保護者	一般	教職員	計
子どもたち同士が学び合って、知力・徳力・体力を高めることができる	241	57	42	340
集団の中でいろいろな役割分担ができる	84	34	13	131
多様な学び方で指導や支援を受けることができる	175	59	26	260
子どもたちが社会性や協調性を身につけることができる	252	82	45	379
一人一人に目が行き届いた、きめ細やかな指導や支援を受けることができる	228	73	41	342
クラブ活動や部活動、委員会活動などが充実している	37	21	3	61
先生との信頼関係が深く、安心して学ぶことができる	234	67	36	337
学校行事などで一人一人が自主的に活躍できる場がある	50	22	13	85
子どもたち同士で活発なコミュニケーションを取ることができる	185	57	17	259

②人数の少ない学校の「よい」ところ ※最大5つまで選択	保護者	一般	教職員	計
仲間意識が生まれやすい	249	67	29	345
異年齢との学習活動を行いやすい	166	55	35	256
体験的な活動や校外活動を機動的に行うことができる	133	54	21	208
教職員の目が届きやすく、きめ細かな指導や支援がしやすい	377	132	61	570
全員で団結や協力がしやすい	196	42	15	253
個々の活動の場が増え、責任感が育ちやすい	170	57	29	256
家庭的な雰囲気の中で学ぶことができる	91	35	18	144
地域の協力を得る機会が多いことから、地域に根差した学びが展開しやすい	56	44	15	115
運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える	145	46	25	216
様々な活動や行事の中でリーダー的な役割を担う機会が多くなる	62	45	14	121
特になし	30	4	1	35

③人数が少ない学校の「よくない」ところ ※最大5つまで選択	保護者	一般	教職員	計
競争意識が薄くなりやすい	116	44	17	177
友だち関係がいつも同じで、友人間に序列ができやすい	293	75	50	418
多様な考えに触れる機会が少ない	190	66	37	293

【大淀町立学校の目指すべき望ましい教育環境に関するアンケート資料】

コミュニケーション能力が育ちにくい	85	28	18	131
PTA活動などにおいて、保護者への負担が多い	272	63	27	362
部活動やクラブ活動などの種類が限定される	170	66	22	258
男女比の偏りが生じやすい	59	20	8	87
班活動やグループ分けに制約が生じる	73	34	21	128
一部の子ども意見や考えに学級全体が引っ張られがちになりやすい	207	62	31	300
集団での活動や行事の教育効果が低くなる可能性がある	81	33	4	118
特になし	36	24	4	64

○大淀町の小学校、中学校の1学級あたりの児童生徒数について

①町内小学校の1学級あたりの児童数(どの程度が望ましいと考えますか)	保護者	一般	教職員	計
10人未満	0	0	0	0
10~14人	15	6	1	22
15~19人	79	24	13	116
20~24人	162	46	36	244
25~29人	136	49	29	214
30~34人	118	37	3	158
35~39人	13	2	1	16
40人以上	1	0	0	1

②町内中学校の1学級あたりの児童数(どの程度が望ましいと考えますか)	保護者	一般	教職員	計
10人未満	0	0	0	0
10~14人	1	2	0	3
15~19人	25	7	3	35
20~24人	89	30	15	134
25~29人	141	37	33	211
30~34人	180	60	24	264
35~39人	75	26	5	106
40人以上	13	2	3	18

## アンケート結果から見て取れる傾向の概要について

### 1.望ましい教育環境について

保護者、一般、教職員ともに、

「社会性や協調性を身に付けることができる」

「一人一人に目が行き届いた、きめ細かな指導や支援を受けることができる」

「子どもたち同士が学び合って、知力・徳力・体力を高めることができる」

教育環境を望んでいる。

「先生との信頼関係が深く、安心して学ぶことができる」教育環境が大差なく次に挙がってきていることから、社会生活を送る上で必要となる、知徳体に関する力、社会性や協調性など、基本的な資質能力を身に付けるために、信頼関係が深く、きめ細かな指導や支援が得られて、安心して子どもたち同士が学び合える教育環境となることを期待していると考えられる。

### 2.人数の少ない学校の「よい」ところについて

非常に多く選択されていたのが、「教職員の目の届きやすさ・きめ細かな指導や支援」であった。続いて、「仲間意識が生まれやすい」が人数の少ない学校の「よい」ところとして期待されている。他にも、「異年齢との学習活動」、「責任感が育ちやすい」、「全員で団結や協力がしやすい」といった多様なよさが僅差で挙げられた。最大5つ選択できる中で、「特にない」（選択数 35）を除いた選択合計数は 2,484 であった。

### 3.人数の少ない学校の「よくない」ところについて

少人数での心配材料は、人数の少ない学校の「よい」ところで多く選ばれた「仲間意識が生まれやすい」とは裏腹に、少人数ゆえの「友達関係の序列」や「一部の意見や考えに引っ張られること」が懸念されている。また、「多様な考えに触れる機会が少なくなること」を選択する人数も次点として大差なく、懸念を抱いている傾向にある。最大5つ選択できる中、「特にない」（選択数 64）を除いた選択合計数は 2,272 であった。上記の2と比べて、「特にない」を選択した数が多く、「よくない」部分として選択した合計数が低いことから、人数の少ない学校に対して肯定的な見解をもつ傾向があると考えられる。

### 4.小学校の1学級あたりの児童数について

「20人～24人」に続き「25人～29人」と20人台をふさわしいとしている。現状の人数と一定の一致はあるものの、さらに少ない人数も望ましいと考えている傾向もある。

### 5.中学校の1学級あたりの生徒数について

「30人～34人」が一番多く、その次に多いのが「25人～29人」となっている。小学校よりも多い生徒数がふさわしいとしているが、現状の人数よりは少ない人数であることが望ましいと考えている傾向が強い。

# 大淀町立学校のめざすべき望ましい教育環境に関するアンケート自由意見 (まとめ)

## ○質問内容

子どもたちにとって望ましい教育環境を整え、充実した学校生活を実現するために進めている大淀町立学校の適正化について、期待されていること、不安に感じておられること、その他、ご提案やご意見等などがございましたら、ご自由にお書きください。

### 【保護者】

通学に関して、不安に思われている意見が特に多かった。その意味からできるだけ現状を維持して欲しいという願いが多かった。一方で1学年1クラスに対するデメリットや不安を表す意見も一定数あった。

- ・小学生からバスや電車通学をしている子どもが現状でもいる中、再編すると安全性に不安感が増す。
- ・校区の範囲、通学の現状から、小学校の3校は維持すべきと考える。
- ・子どもの数が少なくなると人間関係が固定化し、クラスで一度しんどいことがあると最後までそのままつらい思いで過ごすようになることが心配。子どもへの丁寧なケアを願う。
- ・全ての意見を叶えることは難しいだろうが、慎重に審議してよりよい学校、教育環境にして欲しい。

### 【一般】

全体的に、少子化対策のために、子育て支援や移住・定住につながる施策などを期待する意見が大変多かった。その中で、ゆとりがあり子どもたちへの目が行き届いた特色ある教育環境を望む声も目立った。また、再編が前提のアンケートと感じている意見も多数あった。通学への負担や安全を懸念する声も一定数認められた。

- ・子どもの減少が前提となっているようだが、子どもを産み育てやすい環境援助、移住・定住を促進する施策、学びの場として大淀町を選ぶ教育環境にすることが必要。
- ・小学校の統廃合を前提としたアンケートになっている。
- ・通学が集団ではなく、個々になってきており不安を感じる。スクールバスの運行を願う。

### 【教職員】

適正化に際して、教職員の人員の確保を願う意見が多かった。また、現場の声を聞くことや慎重な議論を重ねることを求める意見も複数あった。

- ・児童の多様化等への対応として、より多くの教員でのサポートが必要である。適正化するには十分な教職員数が確保されるべきと考える。
- ・子どもたちのために環境整備や保護者負担軽減を考えた予算配当措置を願いたい。
- ・現場の声をよく聞いてほしいし、慎重な議論を重ねる必要があると考える。